第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

キンメフクロウ

Aegolius funereus sibiricus (Buturlin, 1910)

玉田克巳（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：玉田克巳，2026．キンメフクロウ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 854-858．

Citation: Tamada, K., 2026. *Aegolius funereus sibiricus* (Buturlin, 1910). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 854-858.

フクロウ目 Strigiformes　フクロウ科 Strigidae

キンメフクロウ

***Aegolius funereus sibiricus* (Buturlin, 1910)**

カテゴリー判定結果　情報不足（DD）　①②

基準 A:　―	基準 B:　データ不足	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

①どの生息地においても生息密度が低く希少である。

【判断理由】

国内で繁殖した確実な記録がある。営巣木が伐採されて雛が保護されるなどの事例が少数あるほか、繁殖期に鳴き声が確認される、あるいは鳥類標識調査中に捕獲されるなどの断片的な記録がある。生息数は多くないと思われるが、生息数、生息密度、個体群の動向などを評価ができるだけの情報がない。

②生息地が局限されている。

【判断理由】

繁殖が確認されているのは、北海道中央部、大雪山系などの針葉樹林である。生息数は多くないと思われるが、生息数、生息密度、個体群の動向などを評価ができるだけの情報がない。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

種キンメフクロウ（*Aegolius funereus*）は、全北区の北方針葉樹林（タイガ）と中緯度の山岳針葉樹林に分布し、国内には本亜種が生息する。これまで北海道中央部の針葉樹林で 4 例の繁殖が確認されているが、2 例は営巣木の伐採によって発見されたものである。

協力者:　仲村昇（山階鳥類研究所）

基礎情報

【形態】

小型のフクロウで、全長がオス 21～25 cm、メス 25～28 cm、 体重がオス 90～115 g、メス 120～195 g と、メスはオスよりわずかに大きい。雌雄の羽色は類似している。アオバズク（*Ninox japonica*）・オオコノハズク（*Otus semitorques*）・コノハズク（*Otus sunia*）など他の小型のフクロウ類より顔盤が大きく、上面に白斑があるなど羽色も異なっており容易に識別される。また“ポポポ・・・”と特徴的な声で鳴き、他のフクロウ類と判別できる。

【生活史】

本亜種の繁殖はこれまで数例が知られるだけで、生活史の詳細は不明である。基亜種（*Aegolius funereus funereus*）の生活史は以下のとおりである。繁殖期は 3 月から 6 月で、クマゲラ（*Dryocopus martius*）が穿った巣穴や樹洞で営巣する（巣箱もよく利用する）。一腹産卵数は普通 5～6 卵であるが、餌となるネズミ類の個体数によって変動する。抱卵期間は約 29 日、育雛期間は 28～36 日である。メスのみ抱卵・抱雛を行う。幼鳥は巣立ち後 3～6 週で独立する。留鳥であるが、餌が不足する年は移動する。トガリネズミ類（*Sorex*）・ヤチネズミ類（*Myodes*）・ハタネズミ類（*Microtus*）・小鳥・甲虫を食物とする。本亜種の 1990 年の営巣例ではクマゲラの古巣を利用して繁殖し、雛は 6 月中旬に巣立った。また巣立ち後、巣の底から採集されたペレットには多数のトガリネズミ類とネズミ類（*Myodes*・*Apodemus*）の骨が含まれていた。

【生息環境】

種キンメフクロウはユーラシア大陸と北米大陸の高緯度と中緯度の針葉樹林・針広混交林に生息する。国内では、本亜種の繁殖が確認された北海道中央部の山岳地帯（大雪山系）のうち、調査が行われた 2 ヶ所の繁殖地はエゾマツ（*Picea jezoensis*）・トドマツ（*Abies sachalinensis*）が優占する針葉樹林で林床にササ類が乏しいという共通性がみられる。

生息環境区分：	【陸域_中標高地】森林
国土地域区分：	（1）奥山自然地域

【分布域】

種キンメフクロウはユーラシア大陸と北米大陸の北方針葉樹林（タイガ）およびヨーロッパ、コーカサス、中央アジア、北米の温帯の山岳針葉樹林（亜高山帯針葉樹林）に分布する。本亜種（*Aegolius funereus sibiricus*）は、東シベリアからカムチャツカ半島、バイカル湖付近・ウスリー地方・中国東北部に至るユーラシア大陸東部と島嶼のサハリン・北海道・国後島に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

北海道中央部、大雪山系の針葉樹林で 1986 年に初めて繁殖が確認され、その後 1990 年に 2 例、1993 年に 1 例の営巣が確認された。その他、北海道・本州での目撃記録などがあ

る。

【生息地の現況】

繁殖が確認されている地域は大雪山国立公園などであり、森林として維持されているが、長期にわたり商業伐採が行われてきた。その結果、成熟した森林が減少するとともに疎林化が進み、林床にササ類が繁茂するなど林相が変化している。

【個体数の現況】

これまで北海道中央部、大雪山系などの針葉樹林で営巣が確認されているが、カメラマンなどが殺到する恐れがあることから、記録はほとんど公開されていない。鳥類標識調査では、1972～2021 年の間に 16 羽の放鳥記録がある。国内での個体数は著しく少ない。1993 年に繁殖した上士幌町の営巣地付近では 1994 年と 1995 年の繁殖期に鳴き声が聞かれたが、営巣は確認されなかった。その後ここでは 2005 年、2011 年、2012 年に鳴き声が聞かれている。本州では、新潟県内で採集された古い剥製があり、鳥類標識調査員が本種であることを確認しているが、剥製所有者が逝去されて以降、剥製の所在が不明になっている。

存続を脅かす要因

繁殖が確認された 4 例のうち 2 例は営巣木の伐採により発見されたものである。伐採が本種の生存の直接的脅威になっている。また長年の森林伐採により、成熟した森林が減少し、疎林化が進んで林床にササ類が繁茂するようになった。このような林相の変化は、針葉樹林の林床で活動するトガリネズミ類やヤチネズミ類を主食としている本種の狩りの妨げとなり、生息に不利に作用していると考えられる。

要因の区分：	（過去）	森林伐採
	（現在）	森林伐採

特記事項

営巣木の伐採を防ぐためには、伐採前に調査を行うことが有効である。民間ですでに実施しているが、巣箱を設置することも有効であろう。また、林相の著しい改変を防ぐため伐採量を制限することも有効である。サハリンに生息するものは、*Aegolius funereus sibiricus* あるいは *Aegolius funereus pallens* との見解があり、本亜種についてさらなる検討を要する。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR
第４次 2019：	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR
第４次 2018：	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR
第４次 2017：	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR
第４次 2015：	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR

第４次:	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	CR
第３次:	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	EN
第２次:	キンメフクロウ	*Aegolius funereus magnus*	EN
第１次:	キンメフクロウ	*Aegolius funereus pallens*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅危惧ⅠA類(Cr)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- Cramp, S. (ed.), 1985. Handbook of the birds of Europe, the Middle East and North Africa, Vol. IV. Oxford Univ. Press, Oxford. 960pp.
- del Hoyo, J., A. Elliott and J. Sargatal (eds.), 1999. Handbook of the Birds of the World, Vol. 5. Lynx Edicions, Barcelona. 759pp.
- 橋本正雄，1990．釧路市博物館収蔵資料目録(X) 鳥類標本目録(1)．釧路市博物館，釧路．
- Iso, K., 1991. A Breeding Record of Boreal Owl *Aegolius funereus* in the Northern parts of Mt. Daisetsu, Central Hokkaido. Kamikawanosizen, 15: 25-26.
- 川辺百樹，1992．大雪山国立公園におけるキンメフクロウの繁殖．ひがし大雪博物館研究報告，14: 107-110．
- 川辺百樹，2003．大雪山国立公園鳥類目録．ひがし大雪博物館研究報告，25: 1-49．
- 川辺百樹，2009．上士幌町鳥類目録．ひがし大雪博物館研究報告，31: 1-16．
- 川辺百樹，2010．大雪山国立公園鳥類目録補遺．ひがし大雪博物館研究報告，32: 237-241．
- ネチャエフ，V.A.，1991．藤巻裕蔵（訳），1996．サハリンの鳥類 2，極東鳥類研究会．366pp.
- 帯広営林支局，1996．ミユビゲラ・キンメフクロウの生息等に関する調査報告書．帯広営林支局．84pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aegolius funereus sibiricus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aegolius funereus sibiricus* is listed as DD under criteria ①②.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

①Low population density and rarity are exhibited in all habitats where it occupies. ②Habitats are highly limited.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area】Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.

執筆者:	玉田克巳（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）
Author:	Katsumi Tamada

公表年月：2026 年 3 月